様式 2-1

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H27-05	課題名	感染症起因菌の疫学調査
期間	平成28～30年度	担当部課室	保健科学部　細菌科

課題設定の背景

1　政策上の位置付け

本課題は、「岡山県感染症予防計画」における「感染症の発生の予防及びまん延の防止」に資するものである。

2　県民や社会のニーズの状況

腸管出血性大腸菌感染症は依然として毎年全国的に発生している。また、レジオネラ症の発生は全国的に見ると増加傾向にある。本県において、これら感染症の発生やまん延を防止するため、感染症対策に資する継続した疫学調査が必要である。

3　県が直接取り組む理由

感染症対策及び公衆衛生の観点に立った調査研究を行い、行政による全県的な対応が必要である。

4　事業の緊要性

調査研究結果を活用し、感染症対策を講じることが喫緊の課題である。

調査研究の概要

1　目標

腸管出血性大腸菌感染症等の有効な疫学調査を実施して、感染源・感染経路究明及び感染予防対策等に資する。

2　実施内容

・県内で分離された腸管出血性大腸菌及びレジオネラを対象とした、分布及び流行株の把握、並びに疫学調査の実施

・腸管出血性大腸菌遺伝子解析検査法であるMLVA法 (Multiple-Locus Variable-number tandem-repeat Analysis)の整備

・菌株データベースの構築

3　技術の新規性・独創性

新規にMLVA法を導入することで、腸管出血性大腸菌の遺伝子解析検査が迅速かつ高精度に実施可能となる。

4　実現可能性・難易度

実現の可能性　あり　　難易度　中

5　実施体制

３名、公的機関、病院、大学、民間検査所等との連携

成果の活用・発展性

1　活用可能性

・腸管出血性大腸菌の事例発生時、遺伝子解析検査をMLVA法により実施することで、速やかに行政部門へ結果を還元することが可能となる。

・事例発生時、構築した菌株データベースの菌株情報を比較することにより、感染症の感染源・感染経路究明等の一助となる。

・県内で分離された菌株の分布及び流行株の情報提供を行うことにより、検査機関等の検査業務の参考とする。

2　普及方策

・年報掲載、学会発表等

3　成果の発展可能性

・感染症の感染源・感染経路の究明ができれば、より的確な感染症予防対策の構築が可能となる。

・MLVA法は、検査実施施設間でのデータ比較が容易であるため、感染症の広域発生の探知も可能となる。

実施計画

実施内容＼年度	２８	２９	３０	総事業費
(菌株の収集・分離) (菌株の検査・解析) (MLVA法の整備)				〔単位：千円〕
計画事業費	1,271	1,271	1,271	3,813
一般財源	221	221	221	663
外部資金等 (金額相当の消耗品)	1,050	1,050	1,050	3,150
人件費(常勤職員)	5,600	5,600	5,600	16,800
総事業コスト	6,871	6,871	6,871	20,613